

○広島国際大学学則

1998年1月27日

学園1102

改正 2019年1月18日

第1章 総則

(目的)

第1条 広島国際大学(以下「本大学」という)は、ひとと共に歩み、こころに届く医療を実践する専門職業人を育成し、加えてあらゆるひとの健康と幸福に資する研究を推進する。もって広く社会に貢献する。

(自己評価等)

第2条 本大学は、前条に規定する目的を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行う。

2 前項の点検および評価に関することは、広島国際大学自己評価委員会規定等に定める。

第2章 組織

(学部、学科および教育研究上の目的)

第3条 本大学に、つきの学部および学科を置く。

学部	学科
保健医療学部	診療放射線学科 医療技術学科
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科 リハビリテーション支援学科
医療福祉学部	医療福祉学科
医療経営学部	医療経営学科
心理学部	心理学科
看護学部	看護学科
薬学部	薬学科
医療栄養学部	医療栄養学科

2 保健医療学部各学科の教育研究上の目的は、つきの各号のとおりとする。

イ 診療放射線学科は、急速に高度化、専門化する放射線診療に対応でき、さらに新しい医用技術の開発にも参画できる信頼される医療人としての診療放射線技師を育成する。

ロ 医療技術学科は、臨床工学・臨床検査学・救急救命学の広い領域での知識・技術をもとに、日々進歩し続ける医療機器や医療技術の変化に対応できる能力や医療チームの牽引役になることができる能力を持つ人材を育成する。

3 総合リハビリテーション学部各学科の教育研究上の目的は、つきの各号のとおりとする。

イ リハビリテーション学科は、多様なリハビリテーション技術を総合的に提供でき、すべての人々の健康と生活の向上を目的として予防から治療までの幅広い専門知識と技術に裏打ちされた問題解決能力と豊かな人間性を養った専門職業人(理学療法士、作業療法士および言語聴覚士)として社会に貢献できる人材を育成

する。

ロ リハビリテーション支援学科は、医学、福祉学、人間工学、機械工学、情報工学等の幅広い教育内容と、現場を主体とした実習体験等を通じて実践的な教育を行い、我が国におけるリハビリテーション工学の推進者となる専門性を有し即戦力となる人材を育成する。

- 4 医療福祉学部医療福祉学科は、個人の尊厳および主体性を尊重し、その自己実現と社会参加を促進する社会福祉を探究し、地域住民および他の専門職と協働できる社会福祉専門職を育成する。
- 5 医療経営学部医療経営学科は、高い倫理観を持ち、効率的で質の高い医療サービスを提供するシステムを構築し維持し、地域住民の幸福に貢献する人材を育成する。「医療」を通じて社会貢献できる人材を育成する。医療分野の経営学、経済学、法律学、情報学および医学等に関し、現場に立脚した幅広い実践的な教育および研究を行い、医療現場で即戦力となり得る専門職業人を育成する。
- 6 心理学部心理学科は、幅広い心理学とコミュニケーションの知識と理論を基盤として、日々変動するストレスの多い社会の中で、自己や他者のこころに積極的に関心を持ち、肯定的自己理解を有し、他者に共感的理解を示しながら、温かい人間関係を構築することができ、さらに、個人的だけではなく、人間関係を生かしながら社会の中で生じる課題を創造的に解決していくことのできる人材を育成する。
- 7 看護学部看護学科は、生命の尊厳と個人の尊重を基盤とし、豊かな人間性を形成するとともに、看護の知識・技術を習得し、質の高い看護が展開できるよう、実践力・応用力・判断力を養い、広く社会に貢献できる人材を育成する。
- 8 薬学部薬学科は、専門的知識および優れた技能に加え、豊かな感性と心を持ち、広く社会に貢献できる「人間味あふれる薬剤師」を育成する。
- 9 医療栄養学部医療栄養学科は、人々の健康維持、病気の予防・改善のために食の力を活用し、医療人として地域社会の医療・福祉に貢献できる管理栄養士を育成する。

(助産学専攻科)

第3条の2 本大学に、助産学専攻科を置く。

- 2 助産学専攻科については、別に定める。

(収容定員)

第4条 本大学の収容定員は、つきのとおりとする。

学部	学科	入学定員	第3年次編入学定員	収容定員
保健医療学部	診療放射線学科	70名	—	280名
	医療技術学科	130名	—	520名
	計	200名	—	800名
総合リハビリテーション学部	リハビリテーション学科	130名	—	520名
	リハビリテーション支援学科	30名	—	120名
	計	160名	—	640名
医療福祉学部	医療福祉学科	100名	10名	420名
	計	100名	10名	420名

医療経営学部	医療経営学科	90名	—	360名
	計	90名	—	360名
心理学部	心理学科	90名	10名	380名
	計	90名	10名	380名
看護学部	看護学科	120名	10名	500名
	計	120名	10名	500名
薬学部	薬学科	120名	—	720名
	計	120名	—	720名
医療栄養学部	医療栄養学科	60名	—	240名
	計	60名	—	240名

(職員)

第5条 本大学に、学長、学部長、学長室長、教授、准教授、講師、助教、助手および事務職員を置く。

2 本大学に、必要に応じて副学長を置くことができる。

3 本大学には、前2項のほか、教務部長、学生部長、入試センター長、図書館長、情報センター長、キャリアセンター長、国際交流センター長、学科長その他必要な職員を置く。

(各職員の職務)

第6条 学長は、本大学の学務を統括し、所属職員を統督する。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の重要な事項についての企画および各学部間の連絡調整を行うほか、学長に事故あるときまたは欠けたときは、その職務を行う。

3 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

4 学長室長は、学長を補佐し、その命を受けて本大学の管理運営業務の遂行にあたる。

5 教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の特に優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

6 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の優れた知識、能力および実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

7 講師は、教授または准教授に準ずる職務に従事する。

8 助教は、専攻分野について、教育上、研究上または実務上の知識および能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、または研究に従事する。

9 助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

10 事務職員は、本大学の管理運営業務にあたるほか、学生の学修指導および厚生補導に従事する。

11 その他職員の職務については、職制に関する規定に定める。

(学部長会議)

第7条 本大学に、学部長会議を置く。

2 学部長会議は、学長、副学長、学部長、研究科長、教務部長、学生部長、学長室長、入試センター長、図書館長、情報センター長、キャリアセンター長、国際交流センター長、研究支援・社会連携センター長、研究支援・社会連携センター部長および専攻科長をもって組織し、本大学の重要な事項を審議する。

3 その他学部長会議について必要な事項は、学部長会議規定に定める。

(教授会)

第8条 本大学の各学部に教授会を置く。

2 教授会は、学部長および当該学部の教授をもって組織し、当該学部のつぎの事項について審議する。

- イ 学生の入学および卒業に関すること
- ロ 単位の認定および学業評価に関すること
- ハ 学部内の教育・研究に関すること
- ニ 年間行事予定および授業時間割の編成に関すること
- ホ 学長または学部長が諮問した事項に関すること

3 その他各学部の教授会について必要な事項は、各学部の教授会規定に定める。

(委員会)

第9条 本大学に、本大学の重要な事項を審議する組織として、つぎの委員会を置く。

- イ 自己評価委員会
- ロ 教員選考委員会
- ハ 入試委員会
- ニ 教務委員会
- ホ 学生委員会
- ヘ キャリア支援委員会
- ト 図書館運営委員会
- チ 情報センター運営委員会
- リ 人権侵害防止委員会
- ヌ 個人情報保護委員会
- ル 國際交流委員会

2 自己評価委員会は、自己点検・評価に必要な教育研究目標の設定、教育研究活動の改善、将来計画の策定その他重要な事項を審議する。

3 教員選考委員会は、教員の採用および昇任の資格審査ならびに解雇および研修に関する事項を審議する。

4 入試委員会は、学長の諮問に応じて各学部の入学者選抜についての企画調整その他重要な事項を審議する。

5 教務委員会は、学長の諮問に応じて教務に関する重要な事項の審議および教務に関する各学部間の連絡調整を行う。

6 学生委員会は、学長の諮問に応じて学生の厚生補導、表彰、懲戒その他重要な事項の審議およびそれらに関する各学部間の連絡調整を行う。

7 キャリア支援委員会は、学長の諮問に応じて就職に関する重要な事項の審議および就職に関する各学部間の連絡調整を行う。

8 図書館運営委員会は、学長の諮問に応じて図書館の運営に関し必要な事項を審議する。

- 9 情報センター運営委員会は、学長の諮問に応じて情報センターの運営に関し必要な事項を審議する。
- 10 人権侵害防止委員会は、本大学における人権侵害の防止に関し必要な事項を審議する。
- 11 個人情報保護委員会は、本大学における個人情報の保護に関し必要な事項を審議する。
- 12 國際交流委員会は、学長の諮問に応じて國際交流に関し必用な事項を審議する。
- 13 その他委員会について必要な事項は、各委員会規定に定める。
(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第9条の2 本大学は、授業の内容および方法の改善を図るための組織的な研修および研究を行う。

第3章 学年、学期および休業日

(学年)

第10条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第11条 学年は、つぎの2学期に区分し、前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。

2 必要がある場合、学長は、前項に定める前期の終期および後期の始期を変更することができる。

(休業日)

第12条 授業を行わない日(以下「休業日」という)は、つぎのとおりとする。

イ 日曜日および国民の祝日に関する法律に定める休日

ロ 本学園創立記念日(10月30日)

ハ 春期休業日 3月21日から3月31日まで

ニ 夏期休業日 8月1日から9月14日まで

ホ 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで

2 必要がある場合、学長は、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長は臨時の休業日を定め、または休業日に授業を行うことができる。

第4章 修業年限および在学年限

(修業年限)

第13条 本大学の修業年限は、つぎのとおりとする。

保健医療学部 4年

総合リハビリテーション学部 4年

医療福祉学部 4年

医療経営学部 4年

心理学部 4年

看護学部 4年

薬学部 6年

医療栄養学部 4年

(在学年限)

第14条 学生は、つぎの年数を超えて在学することができない。

保健医療学部 8年
総合リハビリテーション学部 8年
医療福祉学部 8年
医療経営学部 8年
心理学部 8年
看護学部 8年
薬学部 12年
医療栄養学部 8年

- 2 前項にかかわらず、第20条から第22条の規定により入学、転学部または転学科を許可された者の在学年限については、教授会の議を経て、相当な年限を学部長が定める。

第5章 入学

(入学の時期)

第15条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、第20条および第21条第1項に定める者については、後期の始めとすることができる。

(入学資格)

第16条 本大学に入学することのできる者は、つきの各号のいずれかに該当するものとする。

- イ 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- ロ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
- ハ 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準じる者で文部科学大臣の指定したもの
- ニ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- ホ 専修学校の高等課程で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- ヘ 文部科学大臣の指定した者
- ト 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む)
- チ その他本大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

(入学の出願)

第17条 本大学への入学を志願する者は、所定の入学願書および入学検定料に別に定める書類を添えて願い出なければならない。

(入学者の選考)

第18条 入学志願者の選考は、教授会の審議を経て、学長が行う。

(入学手続および入学許可)

第19条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の書類を提出し、所定の学費を納入しなければならない。

- 2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

3 前項により入学を許可された者は、入学宣誓式に出席し、かつ入学の宣誓をするものとする。

(編入学)

第20条 つぎの各号のいずれかに該当する者で、本大学医療福祉学部医療福祉学科または心理学部心理学科への編入学を志願するものがあるときは、選考のうえ第3年次に編入学を許可する。

イ 大学を卒業した者

ロ 大学における2年以上の課程を履修し、62単位以上を取得して退学した者

ハ 短期大学または高等専門学校を卒業した者

ニ 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)のうち志願する学科に関する課程を修了した者

ホ 高等学校等の専攻科(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

2 つぎの各号のいずれかに該当する者で、本大学看護学部看護学科への編入学を志願するものがあるときは、選考のうえ第3年次に編入学を許可する。

イ 大学または短期大学の看護系学科を卒業した者

ロ 専修学校の専門課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)のうち看護系課程を修了した者

ハ 高等学校等の専攻科(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

3 つぎの各号のいずれかに該当する者で、本大学医療経営学部医療経営学科の第3年次に編入学を志願するものがある場合は、志望する学部学科に欠員があるときに限り、選考のうえ編入学を許可することがある。

イ 大学を卒業した者

ロ 大学における2年以上の課程を履修し、62単位以上を取得して退学した者

ハ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

ニ 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者

ホ 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)付則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了または卒業した者

ヘ 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

ト 高等学校等の専攻科(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者

4 つぎの各号のいずれかに該当する者で、本大学医療経営学部医療経営学科、医療福祉学部医療福祉学科、心理学部心理学科の第2年次に編入学を志願するものがある場合は、志望する学部学科に欠員があるときに限り、選考のうえ編入学を許可することがある。

イ 大学を卒業した者

ロ 大学における2年以上の課程を履修して退学した者

- ハ 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
 - ニ 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所または国立養護教諭養成所を卒業した者
 - ホ 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)付則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校または教員養成諸学校等の課程を修了または卒業した者
 - ヘ 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者
 - ト 高等学校等の専攻科(修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る)を修了した者
- 5 その他編入学について必要な事項は、編入学規定に定める。
(転入学および再入学)

第21条 つぎの各号のいずれかに該当する者で、当該大学を退学後引き続き本大学へ入学することを志願するものがあるときは、選考のうえ相当年次に転入学を許可することがある。

- イ 本大学以外の大学に入学し、履修歴のある者
 - ロ 前号と同等以上の学力があると本大学が認める者
- 2 つぎの各号のいずれかに該当する者で、本大学へ入学することを志願するものがあるときは、選考のうえ相当年次に再入学を許可することができる。
- イ 本大学を卒業した者
 - ロ 本大学を退学した者
 - ハ 第37条イ号、ロ号またはホ号により除籍になった者
- 3 その他転入学および再入学について必要な事項は、転入学規定または再入学規定にそれぞれ定める。
(転学部および転学科)

第22条 本大学の学生で、他の学部または同一学部の他の学科に転学部もしくは転学科を希望する者がある場合は、志望先に欠員のあるときに限り、志願先の教授会の議を経て学部長が選考し、学長が相当年次に転学部または転学科を許可することができる。

- 2 その他転学部および転学科について必要な事項は、転学部・転学科規定に定める。
(入学者の既修得単位等の取扱い)

第23条 第19条の規定により、入学を許可された者が入学以前に大学または短期大学等において修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む)のうち30単位を限度として、学部長は教授会の議を経て、卒業の要件となる単位として認めることができる。

- 2 第20条から前条の規定により、入学、転学部または転学科を許可された者の、本大学もしくは他の大学においてすでに履修した授業科目および修得した単位数の取扱いならびに在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が定める。

第6章 教育課程、教職課程および履修方法等 (授業科目)

第24条 授業科目は、共通教育科目、スタンダード科目、オプション科目および専門教育科目とし、これを必修科目、選択必修科目および選択科目に分け、各年次に配

当する。

- 2 前項の区分により、開設する授業科目および単位数は、別表第1のとおり定める。
- 3 前項の授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることがある。なお、該当科目については、別に定める。

(単位の計算方法)

第25条 授業科目の単位の計算基準は、つぎのとおりとする。

- イ 講義および演習については、15時間から30時間までの範囲で、本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ロ 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの範囲で、本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
 - ハ 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち、二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して本大学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項にかかわらず、「卒業研究」については、学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合、これに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

(成績の評価)

第26条 成績の評価は、試験のほか、学生の日常の学修状況等を勘案して行う。

- 2 成績は、S・A・B・C・D・E・F・G・*の評語をもって表し、S・A・B・C・Gを合格とする。

(単位の授与)

第27条 授業科目を履修し、前条により合格した者には、所定の単位を与える。

(他大学等における授業科目の履修等)

第28条 教育上有益と認めるときは、本大学の同一学部の他の学科、他の学部または他の大学との協議に基づき、学長(他の学科については学部長)は、当該他学科、他学部または他大学の授業科目を履修させることができる。

- 2 短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修(平成3年度文部省告示第68号に定めるもの)を教育上有益と認めるときは、本大学における授業科目の履修とみなすことができる。
- 3 前2項の規定により修得した単位については、教授会の議に基づき、学部長は30単位を限度として卒業の要件となる単位として認めることができる。
- 4 第24条第3項により修得した単位は、60単位を超えない範囲で卒業に必要な単位数に含めることができる。

(授業および履修の方法)

第29条 授業の方法および内容ならびに年間の授業の計画、成績評価の基準は、あらかじめ学生に明示するものとする。

- 2 履修の方法、要件等について必要な事項は、各学部の履修規定に定める。

(教職課程)

第29条の2 教育職員免許状の取得を希望する者のために、教育職員免許法および同法施行規則に基づく教職課程を置く。

- 2 前項により開設する授業科目および単位数は、別表第1のとおり定める。
- 3 本大学において、取得できる教育職員免許状の種類および免許教科は、別表第8

のとおりとする。

- 4 前項の免許状を取得するための授業科目の履修方法および修得すべき単位等必要な事項は、履修規定に定める。

第7章 卒業および学位

(卒業)

第30条 本大学に第13条に定める修業年限以上在学して、所定の授業科目を履修し、かつ、つぎに定める単位数を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

保健医療学部

診療放射線学科 130単位以上

医療技術学科 124単位以上

総合リハビリテーション学部

リハビリテーション学科

理学療法学専攻 124単位以上

作業療法学専攻 131単位以上

言語聴覚療法学専攻 128単位以上

リハビリテーション支援学科 124単位以上

医療福祉学部

医療福祉学科

医療福祉学専攻 124単位以上

介護福祉学専攻 124単位以上

保育学専攻 124単位以上

医療経営学部

医療経営学科 124単位以上

心理学部

心理学科 124単位以上

看護学部

看護学科 128単位以上

薬学部

薬学科 186単位以上

医療栄養学部

医療栄養学科 125単位以上

- 2 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、本大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の議を経て、学長が卒業を認定することができる。

- 3 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。

(学位の授与)

第31条 本大学を卒業した者には、つぎの区分に従って学士の学位を授与する。

保健医療学部

診療放射線学科 学士(診療放射線学)

医療技術学科 学士(臨床工学)、学士(臨床検査学)、学士(救急救命学)

総合リハビリテーション学部

リハビリテーション学科 学士(理学療法学)、学士(作業療法学)、学士(言語聴覚療法学)

リハビリテーション支援学科 学士(義肢装具学)

医療福祉学部

医療福祉学科 学士(医療福祉学)

医療経営学部

医療経営学科 学士(医療経営学)

心理学部

心理学科 学士(心理学)

看護学部

看護学科 学士(看護学)

薬学部

薬学科 学士(薬学)

医療栄養学部

医療栄養学科 学士(医療栄養学)

- 2 前項のほか、学位について必要な事項は、学位規定に定める。

第8章 休学、留学、退学および除籍

(休学)

第32条 病気その他やむを得ない理由により、引き続き2カ月以上修学することができない者は、所定の休学願を提出し、所属学部長の許可を得て休学することができる。

- 2 病気その他修学することが適当でないと認められる者については、所属学部長は休学を命じることができる。

(休学期間)

第33条 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して4年を超えることができない。

- 3 休学期間は、第14条に定める在学期間に算入しない。

(復学)

第34条 休学期間が満了したとき、または休学期間中にその理由が消滅したときは、所属学部長の許可を得て復学することができる。

- 2 その他復学について必要な事項は、復学規定に定める。

(留学)

第35条 外国の大学で学修することを志願する者は、学長の許可を得て留学することができる。

- 2 学長は、教育上有益と認められる場合に限り、教授会の議を経て留学を許可する。

- 3 前項の許可を得て留学した期間は、第14条に定める在学期間に含めることができる。

- 4 第28条第2項の規定は、外国の大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

第36条 退学しようとする者は、所属学部長に保証人連署の退学願と学生証を提出し、

学長の許可を受けなければならない。

(除籍)

第37条 つぎの各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。

- イ 学費を所定の期日までに納入しない者
- ロ 休学者で在籍料を所定の期日までに納入しない者
- ハ 第14条に定める在学年限を超えた者
- ニ 成業の見込みがないと認められる者
- ホ 休学者で休学期間満了前までに、所属学部長に復学を願い出ない者
- ヘ 他の大学、短期大学または高等専門学校に在籍していることが明らかになった者
- ト 死亡が確認された者

第9章 賞罰

(表彰)

第38条 成績の特に優秀な学生または表彰に値する行為があった学生は、学生委員会の議を経て、学長が表彰する。

2 その他表彰について必要な事項は、賞罰規定に定める。

(懲戒)

第39条 本大学の学則もしくは諸規定に違反し、または学生としての本分に反する行為をした者は、学生委員会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、放學、停学、けん責および訓告とする。

3 前項の放學は、つぎの各号のいずれかに該当する者に対して行い、再入学は許可しない。

- イ 性行不良で改善の見込みがない者
- ロ 正当な理由がなくて出席常でない者
- ハ 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 停学の期間は、在学年限に算入し、修業年限に算入しない。

5 その他懲戒について必要な事項は、賞罰規定に定める。

第10章 入学検定料および学費等

(入学検定料)

第40条 入学検定料の額は、別表第2のとおりとする。

(学費等)

第41条 学費は、入学金、授業料および教育充実費とし、その額は、別表第3のとおり定める。

2 学費は、所定の期日までに納入しなければならない。

3 休学中の学費は、休学を許可された期の翌期から免除する。ただし、別表第6に定める在籍料を納入しなければならない。

4 広島国際大学学生海外留学規定に定める留学を許可された場合の学費は、学費納入規定の定めるところにより免除する。ただし、別表第6に定める在籍料を学費免除の当該期から納入しなければならない。

5 その他休学中の学費等の取扱いについては、学費納入規定に定める。

(既納の入学検定料、学費等)

第42条 既に納入された入学検定料、学費および在籍料は、返戻しない。ただし、学

費納入規定に定めのある場合は、この限りでない。

(納期、納入方法等)

第43条 学費および在籍料の納期、納入方法等について必要な事項は、学費納入規定に定める。

第11章 研究生、研修生、科目等履修生、特別履修生、外国人留学生および帰国学生

(研究生)

第44条 本大学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。

- 2 研究生を志願することのできる者は、大学を卒業した者またはこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 研究生の在学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、在学期間の延長を認めることができる。
- 4 研究料の額は、別表第4のとおり定める。
- 5 その他研究生について必要な事項は、研究生規定に定める。

(研修生)

第44条の2 本大学において、特定の専門事項について研修することを志願する者があるときは、選考のうえ研修生として入学を許可することがある。

- 2 研修生を志願することのできる者は、高等学校を卒業した者またはこれと同等以上の学力があると認められた者とする。
- 3 研修生の在学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、在学期間の延長を認めることができる。
- 4 研修料の額は、別表第7のとおり定める。
- 5 その他研修生について必要な事項は、研修生規定に定める。

(科目等履修生)

第45条 本大学において、特定の授業科目を履修することを志願する者がある場合は、本大学の教育に支障のないときに限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

- 2 授業科目を履修し合格の評価を受けた者には、所定の単位を与える。
- 3 履修料の額は、別表第5のとおり定める。
- 4 その他科目等履修生について必要な事項は、科目等履修生規定に定める。

(特別履修生)

第46条 他の大学(外国の大学を含む)の学生で、本大学において授業科目を履修することを志願する者がある場合は、本大学の教育に支障のないときに限り、当該大学との協議に基づき、特別履修生として入学を許可することがある。

- 2 その他特別履修生について必要な事項は、特別履修生規定に定める。

(外国人留学生)

第47条 外国人で、本大学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

- 2 外国人留学生の出願資格は、外国において、学校教育における12年以上の課程を修了した者とする。
- 3 本条の規定は、外国人が一般の入学生として入学することを妨げるものではない。

(帰国学生)

第48条 帰国生徒で、本大学に入学を志願する者があるときは、選考のうえ帰国生徒として入学を許可することがある。

- 2 帰国生徒の出願資格は、日本国籍を有し、外国における高等学校に原則として2年以上継続して在学し、学校教育における12年以上の課程を修了した者とする。
- 3 本条の規定は、帰国生徒が一般の入学生として入学することを妨げるものではない。

第12章 公開講座

(公開講座)

第49条 社会人の教養・知識を高め、文化の向上に資するため、本大学に公開講座を開設する。

- 2 公開講座に関し必要な事項については、別に定める。

第13章 付属施設

(図書館)

第50条 本大学に、図書館を設け、本大学の職員および学生の研究・教育に資する。
(情報センター)

第51条 本大学に、情報センターを設け、本大学の職員および学生の研究・教育に資する。

(保健室)

第52条 本大学に、保健室を設け、本大学の職員および学生の保健衛生に資する。
(心理臨床センター)

第52条の2 本大学に、心理臨床センターを設け、本大学の職員および学生の研究・教育に資するとともに、地域住民を対象とした心理臨床相談等を行う。

(福利厚生施設)

第53条 本大学に、福利厚生施設を設け、本大学の職員および学生の福利厚生に資する。

第14章 雜則

(細則)

第54条 この学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改廃)

第55条 この学則の改廃は、学部長会議および教授会の意見を聴き、学長の承認を得て、理事会の議を経て理事長が行う。

付 則

- 1 この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、第40条の別表第2は1998年度入学志願者の出願時から、第41条第1項の別表第3は1998年度入学者の入学手続時から、それぞれ適用する。

2

イ この改正学則は、2019年4月1日から施行する。

ロ 薬学部の2014年度以前の入学者の修得すべき授業科目および単位数については、なお従前の例による。

ハ 第3条にかかわらず、保健医療学部臨床工学科および総合リハビリテーション学科は、2013年3月31日に当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学し

なくなるまでの間、存続するものとする。

- ニ 第31条にかかわらず、保健医療学部の2012年度以前の入学者に授与する学位については、なお従前の例による。
 - ホ 2016年度以前の入学者の学費については、なお従前の例による。
 - ヘ 2012年度以前の入学者の成績の評価については、なお従前の例による。
 - ト 第3条にかかわらず、心理科学部臨床心理学科およびコミュニケーション心理学科は、2015年3月31日に当該学部学科に在学する者が当該学部学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
 - チ 前項の心理科学部各学科に在学する者の学則については、改正後の第1条および第8条を除き、なお従前の例による。
 - リ 総合リハビリテーション学部リハビリテーション支援学科の2014年度以前の入学者の収容定員については、なお従前の例による。
 - ヌ 第31条にかかわらず、総合リハビリテーション学部リハビリテーション支援学科の2014年度以前の入学者に授与する学位については、なお従前の例による。
 - ル 保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療経営学部および看護学部の2015年度以前の入学者の修得すべき授業科目および単位数については、なお従前の例による。
 - ヲ 改正後の第24条、第26条および第28条については、2016年度入学者から適用する。
 - ワ 医療福祉学部の2018年度以前の入学者の修得すべき授業科目および単位数については、なお従前の例による。
 - カ 医療栄養学部の2018年度以前の入学者の修得すべき授業科目および卒業に必要な単位数については、なお従前の例による。

別表第1 教育課程表

I 共通教育科目

1 保健医療学部(各学科共通)

			授業科目	単位数
教養科目	国際社会の理解	国際社会	グローバル社会を考えるⅠ	1
			グローバル社会を考えるⅡ	1
			グローバル社会を考えるⅢ	1
	学際思想・文化	人間思想	思想・文化を考えるⅠ	1
			思想・文化を考えるⅡ	1
		人間と現代社会	現代社会を考えるⅠ	1
			現代社会を考えるⅡ	1
	人間・科学・技術	人間と科学・技術	科学・技術と人間生活Ⅰ	1
			科学・技術と人間生活Ⅱ	1

第2編 学 則(広島国際大学学則)

		術		
基礎教育科目	共通基礎	人文科学	哲学 文学 心理学 日本語表現法 芸術学 文化人類学 コミュニケーション論	2 2 2 2 2 2 2
		社会科学	法学 経済学 歴史学 政治学 教育学	2 2 2 2 2
		自然科学	統計学 数学基礎 数学 物理学 物理学実験 化学 化学実験 生物学 生物学実験	2 1 2 2 1 2 1 2 1
		情報処理	情報基礎演習 情報倫理・応用演習 情報統計演習 情報管理演習 情報発展演習	① ① 1 1 1
		外国語	英語 I a 英語 I b 英語 II a 英語 II b 英語 III a 英語 III b 英語IV 検定英語 ドイツ語a ドイツ語b 中国語a 中国語b 韓国語a 韓国語b	① ① ① ① 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

第2編 学 則(広島国際大学学則)

保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
キャリア教育	Global Communication	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

授業科目				単位数
基礎教育科目	共通基礎	社会科学	日本事情 I	2
			日本事情 II	2
	外国語	日本語 I a		1
				1
		日本語 I b		1
		日本語 II a		1
		日本語 II b		1

[注] 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 共通教育科目の共通基礎社会科学の2単位までを「日本事情 I」の単位数
- 2 共通教育科目の外国語の4単位までを「日本語 I a」、「日本語 I b」、「日本語 II a」および「日本語 II b」の単位数

【卒業に必要な単位数】

学部			保健医療学部					
学科			診療放射線学科			医療技術学科		
科目区分		必修	選択		必修	選択		
教養科目	国際学際	国際社会の理解	—	1	4 * ²	—	1	3 *
		人間と思想・文化	—	2		—	2	
		人間と現代社会	—			—		
		人間と科学・技術	—			—		
	基礎	人文科学	—			—		
		社会科学	—			—		
		自然科学	—	3 * ¹		—	4	
	情報処理		2			2		
			4			4		
	保健体育	1	1			1	1	
	キャリア教育	—				—		

計	7	11	7	11
	18単位以上		18単位以上	

(診療放射線学科)

[注] * 1 : 「物理学(2単位)」および「物理学実験(1単位)」の計3単位を修得すること。

* 2 : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から4単位以上を修得すること。

(医療技術学科)

[注] * : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から3単位以上を修得すること。

2 総合リハビリテーション学部(各学科共通)

授業科目				単位数
教養科目	国際社会の理解	国際	グローバル社会を考えるⅠ	1
		社会	グローバル社会を考えるⅡ	1
		の理解	グローバル社会を考えるⅢ	1
	学際	人間思想・文化	思想・文化を考えるⅠ	1
			思想・文化を考えるⅡ	1
		人間と現代社会	現代社会を考えるⅠ	1
			現代社会を考えるⅡ	1
		人間と科学・技術	科学・技術と人間生活Ⅰ	1
			科学・技術と人間生活Ⅱ	1
基礎教育科目	人文科学	人文	哲学	2
		科学	文学	2
			心理学	2
			日本語表現法	2
			芸術学	2
			文化人類学	2
			コミュニケーション論	2
	社会科学	社会	法学	2
			経済学	2
			歴史学	2
			政治学	2
			教育学	2
	自然科学	自然	統計学	2
		科学	数学基礎	1

第2編 学則(広島国際大学学則)

	数学	2
	物理学	2
	物理学実験	1
	化学	2
	化学実験	1
	生物学	2
	生物学実験	1
情報処理	情報基礎演習	①
	情報倫理・応用演習	①
	情報統計演習	1
	情報管理演習	1
	情報発展演習	1
外国語	英語 I a	①
	英語 I b	①
	英語 II a	①
	英語 II b	①
	英語 III a	1
	英語 III b	1
	英語IV	1
	検定英語	1
	ドイツ語a	1
	ドイツ語b	1
	中国語a	1
	中国語b	1
	韓国語a	1
	韓国語b	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
キャリア教育	Global Communication	2

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

基礎 教育 科目	授業科目			単位数
	共通 基礎	社会 科学	日本事情 I 日本事情 II	
留学生特例科目	外国語	日本語 I a		2
		日本語 I b		2
		日本語 II a		1
		日本語 II b		1

〔注〕 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 共通教育科目の共通基礎社会科学の2単位までを「日本事情Ⅰ」の単位数
- 2 共通教育科目の外国語の4単位までを「日本語Ⅰa」、「日本語Ⅰb」、「日本語Ⅱa」および「日本語Ⅱb」の単位数

【卒業に必要な単位数】

科目区分		学部	総合リハビリテーション学部							
			リハビリテーション学科				リハビリテーション支援学科			
			理学療法学専攻		作業療法学専攻		言語聴覚療法学専攻		義肢装具学専攻	
必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
教養国際	国際社会の理解	—	1	—	1	—	1	—	1	
科目国際	人間と思想・文化	—	2	—	2	—	2	—	2	
	人間と現代社会	—		—		—		—		
	人間と科学・技術	—		—		—		—		
基礎共通	人文科学	—	2	—	2	—	2	—	2	
教育基礎	社会科学	—	2	—	2	—	2	—	2	
	自然科学	—	2	—	2	—	2 * ¹	—	2	
科目	情報処理	2		2		2		2		
	外国語	4		4		4		4		
	保健体育	1	1	1	1	1	1	1	1	
	キャリア教育	—		—		—		—		
計		7	12	7	12	7	12	7	12	
		19単位以上		19単位以上		19単位以上		19単位以上		

[注]

(リハビリテーション学科)

理学療法学専攻

* : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上を修得すること。

作業療法学専攻

* : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上を修得すること。

言語聴覚療法学専攻

* 1 : 「統計学(2単位)」を修得すること。

* 2 : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上を修得すること。

(リハビリテーション支援学科)

義肢装具学専攻

* : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上を修得すること。

3 医療福祉学部

医療福祉学科

授業科目				単位数
教養 科目	国際 社会 の理 解	国際	グローバル社会を考えるⅠ	1
		社会	グローバル社会を考えるⅡ	1
		の理 解	グローバル社会を考えるⅢ	1
	学際 人間 と思 想・文 化	人間	思想・文化を考えるⅠ	1
		と思 想・文 化	思想・文化を考えるⅡ	1
		人間	現代社会を考えるⅠ	1
		と現 代社 会	現代社会を考えるⅡ	1
	人間 と科 学・技 術	人間	科学・技術と人間生活Ⅰ	1
		と科 学・技 術	科学・技術と人間生活Ⅱ	1
基礎 教育 科目	共通 基礎 人文 科学	人文	哲学	2
		科学	文学	2
			心理学	2
			日本語表現法	2
			芸術学	2
			文化人類学	2
			コミュニケーション論	2
	社会 科学	社会	法学	2
		科学	経済学	2
			歴史学	2
			政治学	2
			教育学	2
	自然 科学	自然	統計学	2
		科学	数学基礎	1
			数学	2
			物理学	2
			物理学実験	1
			化学	2
			化学実験	1
			生物学	2

	生物学実験	1
情報処理	情報基礎演習	①
	情報倫理・応用演習	①
	情報統計演習	1
	情報管理演習	1
	情報発展演習	1
外国語	英語 I a	①
	英語 I b	①
	英語 II a	①
	英語 II b	①
	英語 III a	1
	英語 III b	1
	英語 IV	1
	検定英語	1
	ドイツ語a	1
	ドイツ語b	1
	中国語a	1
	中国語b	1
	韓国語a	1
	韓国語b	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
キャリア教育	キャリア開発演習 I	1
	キャリア開発演習 II	1
	キャリア開発演習 III	1
	Global Communication	2

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

授業科目			単位数
基礎教育	共通	社会	日本事情 I
	基礎	科学	日本事情 II
科目	外国語	日本語 I a	1
		日本語 I b	1
		日本語 II a	1
		日本語 II b	1

〔注〕 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 共通教育科目の共通基礎社会科学の2単位までを「日本事情 I」の単位数
- 2 共通教育科目の外国語の4単位までを「日本語 I a」、「日本語 I b」、「日

本語Ⅱa」および「日本語Ⅱb」の単位数

【卒業に必要な単位数】

科目区分	教養科目	国際	国際社会の理解	学部	医療福祉学部	
				学科	医療福祉学科	
				必修	選択	
基礎教育科目	共通基礎	学際	人間と思想・文化	—	2	2 *
			人間と現代社会	—		
			人間と科学・技術	—		
			人文科学	—	2	
		社会科学	社会科学	—	2	2 *
			自然科学	—	2	
			情報処理	—	2	
		外国語		—	4	
		保健体育		—	1	
計		キャリア教育		—		19単位以上
				—	7	
					12	

〔注〕* : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上を修得すること。

4 医療経営学部

医療経営学科

教養科目	国際	国際社会の理解	授業科目		単位数
			グローバル社会を考えるⅠ	1	
			グローバル社会を考えるⅡ	1	
基礎教育科目	共通基礎	学際	グローバル社会を考えるⅢ	1	2 *
			思想・文化を考えるⅠ	1	
			思想・文化を考えるⅡ	1	
			思想・文化を考えるⅢ	1	
		人間と 現代社会	現代社会を考えるⅠ	1	
			現代社会を考えるⅡ	1	
			現代社会を考えるⅢ	1	
		人間と 科学・技術	科学・技術と人間生活Ⅰ	1	
			科学・技術と人間生活Ⅱ	1	
			科学・技術と人間生活Ⅲ	1	
		人文科学	哲学	2	
			文学	2	
			心理学	2	
			日本語表現法	2	
			芸術学	2	
			文化人類学	2	
			コミュニケーション論	2	

社会科学	法学	②
	経済学	②
	歴史学	2
	政治学	2
	教育学	2
自然科学	統計学	②
	数学基礎	1
	数学	2
	物理学	2
	化学	2
	生物学	2
情報処理	情報基礎演習	①
	情報倫理・応用演習	①
	情報統計演習	1
	情報管理演習	1
	情報発展演習	1
外国語	英語 I a	①
	英語 I b	①
	英語 II a	①
	英語 II b	①
	英語 III a	1
	英語 III b	1
	英語IV	1
	検定英語	1
	ドイツ語a	1
	ドイツ語b	1
	中国語a	1
	中国語b	1
	韓国語a	1
	韓国語b	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
教育キャリア	Global Communication	2

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

基礎 教育 科目	共通基 礎	社会科 学	授業科目	単位数	
			日本事情 I	2	
		外国語	日本事情 II	2	
			日本語 I a	1	
			日本語 I b	1	

	日本語Ⅱa	1
	日本語Ⅱb	1

[注] 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 共通教育科目的共通基礎社会科学の2単位までを「日本事情Ⅰ」の単位数
- 2 共通教育科目的外国語の4単位までを「日本語Ⅰa」、「日本語Ⅰb」、「日本語Ⅱa」および「日本語Ⅱb」の単位数

【卒業に必要な単位数】

科目区分	教養科目	国際	国際社会の理解	学部		必修	選択	医療経営学部 医療経営学科			
				学科							
				必修	選択						
基礎教育科目	国際	学際	人間と思想・文化	—	1	2 *		2 *			
			人間と現代社会	—							
			人間と科学・技術	—							
			人文科学	—							
	国際	基礎	社会科学	4							
			自然科学	2							
			情報処理	2							
			外国語	4							
	国際	基礎	保健体育	1	1						
			キャリア教育	—							
計				13	6	19単位以上					

[注] * : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上修得すること。

5 心理学部

教養科目	授業科目			単位数
	国際	国際社会の理解	人間と思想・文化	
	国際社会の理解	国際社会の理解Ⅰ		2
		国際社会の理解Ⅱ		2
		国際社会の理解Ⅲ		2
	人間と思想・文化	人間と思想・文化Ⅰ		2
		人間と思想・文化Ⅱ		2
		人間と思想・文化Ⅲ		2
		人間と現代社会Ⅰ		2
	人間と現代社会	人間と現代社会Ⅱ		2
		人間と現代社会Ⅲ		2
		人間と科学・技術Ⅰ		2

第2編 学 則(広島国際大学学則)

	と科 学・技 術	人間と科学・技術Ⅱ 人間と科学・技術Ⅲ	2 2	
基礎 教育 科目	共通 基礎 科目	人文 科学	哲学 文学 倫理学 心理学 日本語表現法 芸術学 文化人類学 コミュニケーション論	2 2 2 2 2 2 2 2
		社会 科学	法学 経済学 社会学 歴史学 政治学 教育学	2 2 2 2 2 2
		自然 科学	統計学 数学 物理学 物理学実験 化学 化学実験 生物学 生物学実験	② 2 2 1 2 1 2 1
	情報処理		情報処理 I a 情報処理 I b 情報処理 II 情報処理 III 情報処理 IV 情報処理 V 情報処理 VI 情報倫理	① ① 1 1 1 1 1 1
	外国語		英語 I a 英語 I b 英語 II a 英語 II b 英語 III a 英語 III b 英語 IV a 英語 IV b	① ① ① ① ① ① 1 1

	ドイツ語a	1
	ドイツ語b	1
	中国語a	1
	中国語b	1
	韓国語a	1
	韓国語b	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
特講	基礎ゼミナール	①
	キャリア開発演習 I	①
	キャリア開発演習 II	1
	キャリア開発演習 III	1
	Global Communication	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

基礎 教育 科目	共通 基礎	社会 科学	日本事情 I	2
			日本事情 II	2
外 国 語			日本語 I a	2
			日本語 I b	2
			日本語 II	2

[注] 留学生特例科目において修得した単位は、つぎのとおり卒業に必要な単位数に含める。

- 「日本事情 I」の単位を基礎教育科目社会科学科目的単位数に含める。
- 「日本語 I a」、「日本語 I b」および「日本語 II」の単位を基礎教育科目外国語科目的単位数に含める。

【卒業に必要な単位数】

区分	学部	心理学部		
		学科	心理学科	
			必修	選択
共通 教 育 科 目	教養	国際	国際社会の理解	— 2
		学際	人間と思想・文化	— 2
			人間と現代社会	—
			人間と科学・技術	—
基礎 教 育 科 目	共通	人文科学	— 4	6 * ¹
		社会科学	— 4	
		自然科学	2 2	
	情報処理		2	
			6	
	外国語			
	保健体育	1	1	
	特講	2		

計	13	21
34単位以上		

(心理学科)

[注] * 1 : 各区分の卒業要件のほか、選択科目から 6 単位以上を取得すること。

6 看護学部

看護学科

授業科目			単位数
教養科目	国際社会の理解	国際	グローバル社会を考える I
		社会	グローバル社会を考える II
		の理解	グローバル社会を考える III
	学際 人間 と思 想・文 化	人間	思想・文化を考える I
		思想	思想・文化を考える II
		人間	現代社会を考える I
		と現 代社 会	現代社会を考える II
		人間	科学・技術と人間生活 I
		と科 学・技 術	科学・技術と人間生活 II
基礎教育科目	共通基礎 人文 科学	人文	哲学
		科学	文学
			心理学
			日本語表現法
			芸術学
			文化人類学
			コミュニケーション論
	社会 科学	社会	日本国憲法
		科学	経済学
			歴史学
			政治学
			教育学
	自然 科学	自然	統計学
		科学	数学基礎
			数学
			物理学
			化学
			生物学

情報処理	情報基礎演習	①
	情報倫理・応用演習	①
	情報統計演習	1
	情報管理演習	1
	情報発展演習	1
外国語	英語 I a	①
	英語 I b	①
	英語 II a	①
	英語 II b	①
	英語 III a	1
	英語 III b	1
	英語 IV	1
	検定英語	1
	ドイツ語a	1
	ドイツ語b	1
	中国語a	1
	中国語b	1
	韓国語a	1
	韓国語b	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
キャリア教育	Global Communication	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

基礎教育科目	授業科目			単位数
	共通基礎	社会科学	日本事情 I	
	日本事情 II			2
外國語	日本語 I a			1
	日本語 I b			1
	日本語 II a			1
	日本語 II b			1

[注] 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 共通教育科目的共通基礎社会科学の2単位までを「日本事情 I」の単位数
- 2 共通教育科目的外國語の4単位までを「日本語 I a」、「日本語 I b」、「日本語 II a」および「日本語 II b」の単位数

【卒業に必要な単位数】

科目区分	学部	看護学部	
	学科	看護学科	
	必修	選択	

教養科目	国際	国際社会の理解	—	1	2*
	学際	人間と思想・文化	—	2	
		人間と現代社会	—		
基礎教科	共通基礎	人間と科学・技術	—		2*
	人文科学	—	2		
	社会科学	—	2		
育科目	自然科学	2			2*
	情報処理	2			
	外国語	4			
保健体育	保健体育	1	1		
	キャリア教育	—			
計		9	10		
		19単位以上			

* : 各科目区分の卒業要件のほか、選択科目から2単位以上修得すること。

7 薬学部

薬学科

授業科目				単位数
教養科目	国際	国際社会の理解	国際社会の理解Ⅰ	2
			国際社会の理解Ⅱ	2
			国際社会の理解Ⅲ	2
基礎教科	共通基礎	学際	人間と思想・文化	人間と思想・文化Ⅰ
			人間と思想・文化	人間と思想・文化Ⅱ
			人間と現代社会	人間と現代社会Ⅰ
		人間と科学・技術	人間と現代社会	人間と現代社会Ⅱ
			人間と科学・技術	人間と科学・技術Ⅰ
			人間と科学・技術	人間と科学・技術Ⅱ
育科目	人文科学		哲学	2
			文学	2
			倫理学	2
			心理学	2
			芸術学	2
			文化人類学	2
	社会科学		法学	2
			社会学	2
			歴史学	2
			政治学	2
			教育学	2
	自然科学		基礎数学Ⅰ	①
			基礎数学Ⅱ	①

第2編 学則(広島国際大学学則)

	基礎物理学	①
	基礎化学	①
	基礎生物学	①
情報処理	情報処理 I a	①
	情報処理 I b	①
	情報倫理	1
外国語	英語 I a	①
	英語 I b	①
	英語 II a	①
	英語 II b	①
	英語 III a	①
	英語 III b	①
	英語 IV	1
	検定英語	1
保健体育	スポーツ I	①
	スポーツ II	1
	スポーツ III	1
特講	基礎ゼミナール	①
	Global Communication	2

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

基礎教育 科目	共通基礎	社会科学	日本事情 I	2
			日本事情 II	2
	外国語		日本語 I a	2
			日本語 I b	2
			日本語 II	2

〔注〕 留学生特例科目において修得した単位は、つぎのとおり卒業に必要な単位数に含める。

- 1 「日本事情 I」の単位を基礎教育科目社会科学科目的単位数に含める。
- 2 「日本語 I a」、「日本語 I b」および「日本語 II」の単位を基礎教育科目外国語科目に含める。

【卒業に必要な単位数】

区分	学部	薬学部		
		学科	薬学科	
			必修	選択
教養 科目	国際 学際	国際社会の理解	—	2
		人間と思想・文化	—	2
		人間と現代社会	—	
		人間と科学・技術	—	
基礎 教育	共通	人文科学	—	2
	基礎	社会科学	—	2

科目	自然科学	5	—
情報処理		2	—
外国語		6	
保健体育		1	1
特講		1	
計		15	9
		24単位以上	

II スタンダード科目

- 1 保健医療学部、総合リハビリテーション学部、医療福祉学部、医療経営学部、看護学部

授業科目	単位数
スタンダード科目 アカデミックリテラシー	①
チュートリアル	①
専門職連携基礎演習 I	①
専門職連携基礎演習 II	①
専門職連携総合演習 I	1
専門職連携総合演習 II	1
防災・危機管理学	1
地域創生論	1

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	必修	選択
スタンダード科目	4	2
計	6 単位以上	

2 医療栄養学部

授業科目	単位数
スタンダード科目 アカデミックリテラシー	①
チュートリアル	①
専門職連携基礎演習 I	①
専門職連携基礎演習 II	①
専門職連携総合演習 I	①
専門職連携総合演習 II	①
地域創生と危機管理	①
デジタルコミュニケーション	①
データサイエンス I	①
英語コミュニケーション I	①
英語コミュニケーション II	①
英語リーディング I	①
英語リーディング II	①
スポーツ学	①
スポーツ実習 I	①

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	必修	選択
スタンダード科目	15	—
計	15単位以上	

III オプション科目

医療栄養学部

	授業科目	単位数
オプション科目 (ベーシック)	グローバル 中国語 I	1
	中国語 II	1
	ドイツ語 I	1
	ドイツ語 II	1
	情報学 プログラミング I	1
	人間と文化 哲学	2
	文学	2
	心理学	2
	芸術学	2
	文化人類学	2
人間と社会	日本国憲法	2
	経済学	2
	歴史学	2
	政治学	2
	人間と自然 統計学	②
人間と自然	数学基礎	1
	数学	2
	物理学	2
	化学	②
	生物学	②
	科学実験a	1
	科学実験b	1
	総合 日本語表現法	2
オプション科目 (アドバンスド)	コミュニケーション論	2
	グローバル Reading&Writing	1
	英語プレゼンテーション	1
	検定英語	1
	グローバル化と人間a	1
情報学	グローバル化と人間b	1
	データサイエンス II	1
	データ解析	1
	プログラミング II	1
保健体育	スポーツ実習 II	1

人間と文化	人間と文化a	1
	人間と文化b	1
人間と社会	人間と社会a	1
	人間と社会b	1
人間と自然	人間と自然a	1
	人間と自然b	1
総合	教養ゼミ	1

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【留学生特例科目】

授業科目			単位数
オプ ショ ン科 目	人間と社会	日本事情a	2
		日本事情b	2
	グローバル	日本語 I	2
		日本語 II	2

[注] 留学生特例科目において修得した単位は、学部および学科で履修すべき単位数のうち、次に掲げるもので代えることができる。

ただし、その履修に関しては学部または学科の指示に従うものとする。

- 1 オプション科目(ベーシック)の人間と社会の2単位までを「日本事情a」または「日本事情b」の単位数
- 2 オプション科目のグローバルの4単位までを「日本語I」、「日本語II」の単位数

【卒業に必要な単位数】

区分	必修	選択
オプション科目	6	4
計	10単位以上	

IV 専門教育科目

1 保健医療学部

イ 診療放射線学科

授業科目			単位数
専門基 礎分野 の成り 立ち	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	人体構造学	①
		人体構造学実習	②
		人体生理機能学	①
		人体生理機能学実習	②
		臨床生化学	①
		病理学	①
		医学医療総論(生命倫理を含む)	②
		臨床医学総論	②
		公衆衛生学	①
	理工学的基礎並びに	基礎数学演習	1
		基礎物理学演習	1
		統計学演習	1

放射線 の科学 及び技 術	放射線物理学 I	②	
	放射線物理学 II	②	
	放射線物理学演習	①	
	電気電子工学	②	
	電気電子工学演習	①	
	電気電子工学実験	①	
	放射化学	②	
	放射化学実験	①	
	放射線計測学	②	
	放射線計測学演習	①	
	放射線計測学実験	①	
	放射線生物学	②	
専門分 野	診療画 像技術 学	医用画像学概論	2
		診療画像機器学 I	②
		診療画像機器学 II	②
		X線撮影技術学 I	②
		X線撮影技術学 II	②
		医用磁気共鳴学	②
		断層検査技術学	②
		画像解剖学	②
		画像診断学	②
		基礎画像読影学	2
	核医学 検査技 術学	葉理学	1
		核医学機器学	②
放射線 治療技 術学	核医学技術学	②	
	核医学	②	
	放射線 治療技 術学	放射線腫瘍学	②
		放射線治療機器学	②
		放射線治療管理学	1
医用画 像情報 学	放射線治療技術学 I	②	
		放射線治療技術学 II	②
	放射線 写真学	①	
	放射線写真学実験	①	
	医用画像工学 I	②	
放射線 安全管理 理学	医用画像工学 II	②	
	医用画像工学実験	②	
	医用画像情報システム論	②	
	放射線管理学	①	
放射線 安全管理 理学	放射線関係法規	①	
	放射線保健管理学	②	
	放射線管理学実験	①	

臨床実習 技術学 総合・ 関連分 野	臨床実習 I	(2)
	臨床実習 II	(8)
	患者接遇論	2
	医療安全管理学	(2)
	総合放射線工学実験	(2)
	医療英語	(2)
	救急医療	2
	放射線科学演習 I	(2)
	放射線科学演習 II	2
	卒業研究	(4)

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	必修	選択
専門基礎分野	31	
専門分野	67	8
計	98	8
106単位以上		

□ 医療技術学科

①臨床工学専攻

	授業科目	単位数
専門基礎分野	医療技術学基礎演習 I	(1)
	医療技術学基礎演習 II	(1)
	早期体験演習	(1)
	医療英語	2
	生命倫理	(2)
	人体の構造及び機能	
	人体構造学	(2)
	人体構造学実習	(1)
	人体生理機能学	(2)
	人体生理機能学実習	(1)
臨床工学に必要な医学的基礎	医学概論	(1)
	生化学	(2)
	公衆衛生学	(2)
	病理学	(2)
	薬理学	(2)
	看護学概論	(2)
	臨床工学に必要な理工学的基礎	
	基礎数学演習	(1)
	基礎物理学演習	(1)
	応用数学	(2)
	電気工学	(2)

	電子工学	②	
	電気工学実習	①	
	電子工学実習	①	
	機械工学	②	
	計測工学	②	
臨床工学に 必要な医療 情報技術と システム工 学の基礎	情報科学概論	②	
	システム工学	②	
	システム情報工学実習	①	
	医療情報技術学演習	①	
	医療安全システム演習	1	
専門 分野	医用生体工 学	医工学概論 物性工学 材料工学 医用画像工学	② ② ② 2
	医用機器学	生体計測技術学 生体計測技術学実習 医用治療機器学 医用機器学実習 医療機器学総合演習 医用機器学概論	② ① ② ① ① ②
	生体機能代 行技術学	生体機能代行技術学概論 体外循環技術学 不整脈治療技術学演習 呼吸療法技術学 血液浄化技術学 生体機能代行技術学実習	② ② ① ② ② ③
	医用安全管理 理学	機器安全管理学 機器安全管理学実習 関係法規 I 医療機器管理学演習	② ① ① ①
関連臨床医 学	臨床医学総論 I	②	
	臨床医学総論 II	②	
	臨床医学総論 III	②	
臨床実習	臨床工学実習	④	
	国際臨床工学	1	
卒業研究	卒業研究方法論	②	
	卒業研究	②	
専門 総合 分野	総合技術	臨床工学演習 I 臨床工学演習 II 臨床工学演習 III 基礎医学総合演習	① ① ① 1

	基礎工学総合演習 I	1
	基礎工学総合演習 II	1
	ME総合演習 I	1
	ME総合演習 II	1
	臨床医学総合演習	1
臨床検査学・救急 救命学分野	病理組織細胞学	2
	病理組織細胞学演習	1
	病理組織細胞学実習	1
	臨床血液学	2
	臨床血液学演習	1
	臨床血液学実習	1
	臨床検査総論 I	2
	臨床検査総論実習 I	1
	臨床検査総論 II	2
	臨床検査総論実習 II	1
	臨床化学	2
	臨床化学演習	1
	臨床化学実習	1
	放射性同位元素検査技術学	2
	遺伝子・染色体検査学演習・実習	2
	臨床微生物学	2
	臨床微生物学演習	1
	臨床微生物学実習	1
	臨床免疫学	2
	臨床免疫学演習	1
	臨床免疫学実習	1
	臨床生理学	2
	臨床生理学演習	1
	臨床生理学実習	1
	医療安全管理学	1
	医療安全管理学実習	1
	関係法規 II	1
	臨床検査学実習	6
	バイオテクノロジー演習	1
	医用工学概論	2
	医用工学概論実習	1
	救急救命処置演習・実習 I	2
	救急救命処置演習・実習 II	2
	救急医学総論	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

②臨床検査学専攻

授業科目		単位数
専門基礎分野	医療技術学基礎演習 I	①
	医療技術学基礎演習 II	①
	早期体験演習	①
	生命倫理	②
	医療英語	2
	人体の構造と機能	
	人体構造学	②
	人体構造学実習	①
	人体生理機能学	②
	人体生理機能学実習	①
保健医療福祉と医学検査	生化学	②
	医学検査の基礎と疾病との関連	
	医学概論	①
	病理学	②
	保健医療福祉と医学検査	
	関係法規 II	①
	公衆衛生学	②
	健康食品学	2
	食品衛生学	2
	医療工学及び情報科学	
専門分野	医用工学概論	②
	医用工学概論実習	①
	情報科学概論	②
	臨床病態学	
	臨床病態学 I	②
	臨床病態学 II	②
	形態検査学	
	病理組織細胞学	②
	病理組織細胞学演習	①
	病理組織細胞学実習	①
生物化学分析検査学	臨床血液学	②
	臨床血液学演習	①
	臨床血液学実習	①
	臨床細胞診断学	②
	臨床検査総論 I	②
	臨床検査総論実習 I	①
	臨床化学	②
	臨床化学演習	①
	臨床化学実習	①
	放射性同位元素検査技術学	②
病因・生体防御検査学	遺伝子・染色体検査学演習・実習	②
	バイオテクノロジー演習	1
	臨床微生物学	②
臨床微生物学	臨床微生物学演習	①
	臨床微生物学実習	①

	臨床免疫学	②
	臨床免疫学演習	①
	臨床免疫学実習	①
	移植・輸血検査学	②
	感染制御学	②
生理機能検 査学	臨床生理学	②
	臨床生理学演習	①
	臨床生理学実習	①
	医用画像工学	2
検査総合管 理学	臨床検査総論 II	②
	臨床検査総論実習 II	①
	検査総合管理学	②
医療安全管 理学	医療安全管理学	①
	医療安全管理学実習	①
臨床実習	臨床検査学実習	⑥
	国際臨床検査学	1
卒業研究	卒業研究方法論	②
	卒業研究	②
専門 総合 分野	総合技術	①
	臨床検査学演習 I	①
	臨床検査学演習 II	①
	臨床検査学演習 III	①
	形態・生理機能検査学総合演習	①
	生物化学分析検査学総合演習	①
臨床工学・救急救 命学分野	生体防御検査学総合演習	①
	薬理学	2
	看護学概論	2
	基礎数学演習	1
	基礎物理学演習	1
	応用数学	2
	医工学概論	2
	電気工学	2
	電気工学実習	1
	電子工学	2
	電子工学実習	1
	物性工学	2
	機械工学	2
	材料工学	2
	計測工学	2
	医用機器学概論	2
	生体機能代行技術学概論	2
	体外循環技術学	2

呼吸療法技術学	2
血液浄化技術学	2
不整脈治療技術学演習	1
生体機能代行技術学実習	3
医用治療機器学	2
医用機器学実習	1
生体計測技術学	2
生体計測技術学実習	1
機器安全管理学	2
機器安全管理学実習	1
臨床医学総論 I	2
臨床医学総論 II	2
臨床医学総論 III	2
関係法規 I	1
臨床工学実習	4
救急救命処置演習・実習 I	2
救急救命処置演習・実習 II	2
救急医学総論	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

③救急救命学専攻

授業科目		単位数
	医療技術学基礎演習 I	①
	医療技術学基礎演習 II	①
	医療英語	2
専門基礎分野	人体の構造と機能	②
	人体構造学	②
	人体構造学実習	①
	人体生理機能学	②
	人体生理機能学実習	①
専門分野	生化学	②
	疾患の成り立ちと回復の過程	①
	医学概論	①
	病理学	②
	薬理学	②
専門分野	健康と社会保障	②
	公衆衛生学	②
	救急医学概論	①
	関係法規III	①
	救急医学総論	②
	救急災害システム論	②
	生命倫理	②
	救急統計学	②
	救急症	②
	救急現場活動学	②

候・病態生物学 理学	特定行為処置論	②
	救急症候・病態生理学 I	②
	救急症候・病態生理学 II	②
疾病救急 医学	小児科学	②
	産婦人科学	①
	精神医学	①
	臨床病態学 I	②
	臨床病態学 II	②
外傷救急 医学	外傷救急医学 I	②
	外傷救急医学 II	②
環境障害・急性中毒医学	環境障害・急性中毒学	①
臨地実習	救急救命処置演習・実習 I	②
	救急救命処置演習・実習 II	②
	救急救命処置演習・実習 III	③
	救急救命処置演習・実習 IV	③
	救急救命高度演習・実習 I	②
	救急救命高度演習・実習 II	②
	救急救命総合演習・実習	②
	応急手当演習・実習	①
	救急システム実習 I	①
	救急システム実習 II	①
	救急システム実習 III	①
	救急システム実習 IV	⑥
	国内救急救命事情	1
	国際救急救命学	1
卒業研究	卒業研究方法論	②
	卒業研究	②
専門 総合 分野	救急救命学 I	②
	救急救命学 II	②
	救急救命学 III	②
	救急救命学 IV	②
	救急救命学 V	②
	教養総合演習 I	①
	教養総合演習 II	①
	教養総合演習 III	①
	教養総合演習 IV	①
	教養総合演習 V	②
臨床工学・臨床検査学分野	基礎数学演習	1
	基礎物理学演習	1

応用数学	2
電気工学	2
医療情報技術学演習	1
医工学概論	2
計測工学	2
情報科学概論	2
医用治療機器学	2
体外循環技術学	2
呼吸療法技術学	2
生体計測技術学	2
臨床血液学	2
臨床検査総論 I	2
臨床生理学	2
看護学概論	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	臨床工学専攻		臨床検査学専攻		救急救命学専攻	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択
専門基礎分野	42		24		17	
専門分野	46	9	58	12	60	7 *
専門総合分野	3		6		16	
他専攻分野	—		—		—	
計	91	9	88	12	93	7
	100単位以上		100単位以上		100単位以上	

救急救命学専攻

* : 7 単位のうち、「国内救急救命事情」または「国際救急救命」を修得すること。

2 総合リハビリテーション学部

イ リハビリテーション学科

①理学療法学専攻

授業科目			単位数
専門基 礎分野	人体の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学 I 解剖学 II 解剖学実習 生理学 I 生理学 II 生理学実習 運動学 運動学実習 機能解剖学	② ② ① ② ② ① ② ① 2

	人間発達学	②	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	②	
	内科学 I	①	
	内科学 II	①	
	整形外科学 I	①	
	整形外科学 II	①	
	精神医学	②	
	脳神経学 I	①	
	脳神経学 II	①	
	発達障害学	②	
	リハビリテーション概論	②	
保健医療福祉理念	生命倫理	②	
	リハビリテーション心理学	2	
	加齢医学	2	
専門分野	基礎理学療法学	理学療法概論 理学療法研究法 理学療法管理運営学	② ② ②
	理学療法評価学	運動系機能能力評価学 I 運動系機能能力評価学実習 I 運動系機能能力評価学 II 運動系機能能力評価学実習 II 神経系機能能力評価学 内部系機能能力評価学 生活支援系評価学	① ① ① ① ① ① ①
	理学療法治療学	徒手療法学 運動療法学 物理療法学 物理療法学実習 義肢装具学 I 義肢装具学 II 内部障害理学療法治療学 内部障害理学療法治療学実習 運動器理学療法治療学 運動器理学療法治療学実習 スポーツ外傷治療学 スポーツ外傷治療学演習 発達障害理学療法学 中枢神経系理学療法治療学 I 中枢神経系理学療法治療学 II 中枢神経系理学療法治療学実習 生活支援系理学療法治療学	2 ② ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ① ①

	生活支援系理学療法治療学実習	①
	臨床運動学	①
	臨床運動学実習	①
	臨床理学療法演習	①
地域理学療法学	地域理学療法学	①
	地域在宅理学療法学演習	①
	ヘルスプロモーション論	2
	公衆衛生学	①
臨床実習	臨床体験実習	①
	検査測定実習	①
	臨床評価実習	②
	総合臨床実習	⑯
	卒業研究	④
専門総合分野	総合技術	②
	理学療法学演習	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

②作業療法学専攻

		授業科目	単位数
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 I	②
		解剖学 II	②
		解剖学実習	①
		生理学 I	②
		生理学 II	②
		生理学実習	①
		リハビリテーション運動学	②
		リハビリテーション運動学実習	①
		人間発達学	②
成り立ち及び回復過程の促進	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	医学概論	②
		リハビリテーション内科学 I	①
		リハビリテーション内科学 II	①
		リハビリテーション整形外科学 I	①
		リハビリテーション整形外科学 II	①
		リハビリテーション精神医学	②
		リハビリテーション脳神経学 I	①
		リハビリテーション脳神経学 II	①
		発達障害学	②
保健医療福祉理念	リハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	②
		生命倫理	②
		リハビリテーション心理学	2
		加齢医学	2
専門分野	基礎作業療法	作業療法概論	②

第2編 学 則(広島国際大学学則)

野 学	作業療法研究法	②
	作業学	②
	作業学実習	①
	作業療法理論	②
作業療法評価 学	作業療法評価学総論	①
	神経系機能能力評価学	①
	神経系機能能力評価学実習	①
	運動系機能能力評価学	①
	運動系機能能力評価学実習	①
	精神・認知機能能力評価学	①
作業療法治療 学	作業療法治療学総論	②
	内部障害作業療法学	①
	脳血管障害作業療法学	①
	脳血管障害作業療法学演習	①
	運動器障害作業療法学	①
	運動器障害作業療法学演習	①
	老年期作業療法学	①
	老年期作業療法学演習	①
	発達障害作業療法学	①
	発達障害作業療法学演習	①
	精神障害作業療法学	①
	精神障害作業療法学演習	①
	義肢装具学 I	①
	日常生活活動学	①
	日常生活活動学実習	①
地域作業療法 学	地域作業療法学	①
	公衆衛生学	①
	ヘルスプロモーション論	2
	介護予防方法論	2
	福祉住環境コーディネート論	②
	就労支援技術学	2
臨床実習	臨床見学実習	①
	臨床体験実習	②
	臨床推論実習	⑥
	総合臨床実習	⑯
	卒業研究	④
専門総 合分野	総合技術	①
	作業療法学演習 I	①
	作業療法学演習 II	①
	作業療法学演習 III	②
	作業療法特別講義	2

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

③言語聴覚療法学専攻

		授業科目	単位数
専門基礎分野	基礎医学	医学概論	②
		解剖学	②
		生理学	②
		解剖・生理学演習	1
		病理学概論	②
		人間発達学	2
		公衆衛生学	1
	臨床医学及び歯学	リハビリテーション精神医学	②
		小児科学	①
		リハビリテーション医学	1
		内科学概論	①
		リハビリテーション脳神経学	①
		耳鼻咽喉科学	①
		形成外科学	①
専門分野	音声言語聴覚医学	歯科口腔外科学	①
		脳神経機能評価学	②
		音声聴覚医学	①
		言語理論と言語心理	②
		音声学	②
	音声学・言語学	音響・聴覚心理学	②
		言語発達学	①
		カウンセリング	2
		臨床心理学	②
		発達心理学	②
専門分野	心理学	学習心理学	2
		認知心理学	②
		心理測定法	②
		音楽療法概論	1
		グループダイナミクス	1
		リハビリテーション概論	②
		特別支援教育概論	1
	社会福祉・教育	社会保障制度論(関係法規含む)	①
		加齢医学	2
		生活環境科学	2
	障害学	ヘルスプロモーション論	2
		言語聴覚障害学概論 I	②
		言語聴覚障害学概論 II	②
		発達系障害学概論 I	②
		発達系障害学概論 II	②

	発達系障害学演習 I	①
	発達系障害学演習 II	①
高次脳機能障害学	認知系障害学概論 I	②
	認知系障害学概論 II	②
	認知系障害学演習 I	①
	認知系障害学演習 II	①
発声発語嚥下障害学	発声発語系障害学概論 I	②
	発声発語系障害学概論 II	②
	発声発語系障害学演習	①
	拡大・代替コミュニケーション論	1
	嚥下系障害学概論 I	②
	嚥下系障害学概論 II	②
聴覚障害学	嚥下系障害学演習	①
	聴覚系障害学概論 I	②
	聴覚系障害学概論 II	②
	聴覚系障害学演習 I	①
臨床実習	聴覚系障害学演習 II	②
	臨床実習 I	①
	臨床実習 II	④
	臨床実習 III	⑦
総合技術	臨床研究 I	②
	臨床研究 II	②
	卒業研究	④
	言語聴覚学演習	②
	言語聴覚特別講義 I	2
	言語聴覚特別講義 II	2

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	理学療法学専攻		作業療法学専攻		言語聴覚療法学専攻	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択
専門基礎分野	31	7 *	31	7 *	37	11*
専門分野	59		64		55	
専門総合分野	2		4		—	
計	92	7	99	7	92	11
	99単位以上		106単位以上		103単位以上	

理学療法学専攻

* : 『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』もしくは以下の学科・専攻の科目の中から7単位以上を修得すること。

学科・専攻	授業科目
リハビリテーション学科・作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学、作業療法特別講義

リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ
リハビリテーション支援学科・義肢装具学専攻	リハビリテーション心理学、福祉住環境学、ユニバーサルデザイン、センサ一制御学演習Ⅰ

作業療法学専攻

* : 『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』もしくは以下の学科・専攻の科目の中から7単位以上を修得すること。

学科・専攻	授業科目
リハビリテーション学科・理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学、理学療法特別講義
リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ
リハビリテーション支援学科・義肢装具学専攻	リハビリテーション心理学、福祉住環境学、ユニバーサルデザイン、センサ一制御学演習Ⅰ

言語聴覚療法学専攻

* : 『専門基礎分野』基礎医学の科目区分のうち、「解剖・生理学演習」、臨床医学及び歯学の科目区分のうち、「リハビリテーション医学」、社会福祉・教育の科目区分のうち「加齢医学」、『専門分野』総合技術の科目区分のうち、「言語聴覚特別講義Ⅰ」、「言語聴覚特別講義Ⅱ」を含む、『専門基礎分野』、『専門分野』もしくは以下の学科・専攻の科目の中から11単位以上を修得すること。

学科・専攻	授業科目
リハビリテーション学科・理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学、理学療法特別講義
リハビリテーション学科・作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学、作業療法特別講義
リハビリテーション支援学科・義肢装具学専攻	リハビリテーション心理学、福祉住環境学、ユニバーサルデザイン、センサ一制御学演習Ⅰ

□ リハビリテーション支援学科

義肢装具学専攻

授業科目			単位数
専門基礎分野 の発達	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学 解剖学演習 機能解剖学 生理学 生理学演習	(2) (1) (2) (2) (1)

	リハビリテーション運動学	②
	リハビリテーション運動学実習	①
	人間工学	2
	人間工学演習	1
	病理学概論	②
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学概論	②
	リハビリテーション整形外科学	②
	リハビリテーション心理学	2
	リハビリテーション脳神経学	②
	公衆衛生学	②
	社会参加と高齢者の福祉	2
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	①
	認知行動科学	①
	ボランティア論	②
	福祉住環境学	2
	介護概論	①
	保健医療福祉論	2
	高齢者福祉論	2
	生命倫理	①
	関係法規	①
	図学・製図学	①
義肢装具領域における工学	機構学	①
	情報処理演習	①
	機械工学	①
	制御工学	①
	ユニバーサルデザイン	②
	センサー制御学演習 I	①
	センサー制御学演習 II	①
	統計学演習	①
	基礎義肢装具学概論	②
	義肢装具基礎工作論	②
専門分野	義肢装具基礎工作実習	②
	義肢装具材料科学	②
	義肢装具材料力学	②
	福祉用具支援論	2
	福祉用具プランニング演習	1
	理学療法検査測定演習	①
	運動機能計測学	②
	運動機能計測学実習	①
	機器工作論	①
	機器工作演習	①

応用義肢装具学	義肢 I (下腿義足)	①	
	義肢 I 実習(下腿義足)	②	
	義肢 II (義手)	①	
	義肢 II 実習(義手)	②	
	義肢 III (大腿義足)	①	
	義肢 III 実習(大腿義足)	②	
	バイオメカニクス	2	
	バイオメカニクス演習	1	
	装具 I (下肢装具)	①	
	装具 I 実習(下肢装具)	②	
	装具 II (体幹装具)	①	
	装具 II 実習(体幹装具)	②	
	装具 III (上肢装具)	①	
	装具 III 実習(上肢装具)	②	
	装具 IV (座位保持装置・車椅子)	①	
	特殊補装具学(エピテーゼ・足底板応用編)	①	
	特殊補装具学実習(エピテーゼ・足底板応用編)	①	
臨床実習	見学実習	①	
	臨床実習 I	①	
	臨床実習 II	④	
	臨床実習 III	⑥	
	卒業研究	④	
専門総合分野	総合技術	義肢装具学演習	①
		医療英語	①

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	義肢装具学専攻	
	必修	選択
専門基礎分野	38	
専門分野	53	6 *
専門総合分野	2	
計	93	6
	99単位以上	

* : 『専門基礎分野』、『専門分野』、『専門総合分野』もしくは以下の学科・専攻の科目の中から6単位以上を修得すること。

学科・専攻	授業科目
リハビリテーション学科・理学療法学専攻	物理療法学、運動療法学、臨床運動学、理学療法管理運営学、理学療法特別講義

リハビリテーション学科・作業療法学専攻	介護予防方法論、就労支援技術学、作業療法特別講義
リハビリテーション学科・言語聴覚療法学専攻	言語聴覚障害学概論Ⅰ、言語聴覚障害学概論Ⅱ、嚥下系障害学概論Ⅰ

3 医療福祉学部

医療福祉学科

専門基礎科目	授業科目	単位数	履修区分		
			医療福祉学科		
			医療福祉学専攻	介護福祉学専攻	保育学専攻
社会福祉原論Ⅰ	2	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/>
社会福祉原論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>			
ソーシャルワーク入門	1	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	
社会福祉論Ⅰ	2				
社会福祉論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>			
社会福祉援助技術論Ⅰ	2	<input type="checkbox"/>			
社会福祉援助技術論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>			
社会福祉援助技術論Ⅲ	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
社会福祉援助技術論Ⅳ	2	<input type="checkbox"/>			
社会福祉援助技術論Ⅴ	2	<input type="checkbox"/>			
社会福祉援助技術論Ⅵ	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
地域福祉論Ⅰ	2	<input type="checkbox"/>			
地域福祉論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>			
福祉行政財政と福祉計画	2				
福祉運営管理論	2				
社会保障論Ⅰ	2	<input type="checkbox"/>			
社会保障論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>			
高齢者福祉論Ⅰ	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
高齢者福祉論Ⅱ	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	2	<input type="checkbox"/>			
障がいの理解	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		
児童福祉論	2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学校ソーシャルワーク論	2				
公的扶助論	2				
保健医療サービス	2	<input type="checkbox"/>			
保健医療ソーシャルワーク論Ⅰ	2				
保健医療ソーシャルワーク論Ⅱ	2				
就労支援	1				
権利擁護と成年後見	2	<input type="checkbox"/>			
更生保護	1				

	社会福祉援助技術演習 I	3			
	社会福祉援助技術演習 II	2			
	社会福祉援助技術現場実習概論	2			
	社会福祉援助技術現場実習指導 I	1			
	社会福祉援助技術現場実習指導 II	1			
	社会福祉援助技術現場実習指導 III	1			
	社会福祉援助技術現場実習	4			
精神	精神疾患とその治療 I	2			
保健	精神疾患とその治療 II	2			
福祉	精神保健の課題と支援 I	2			
系科	精神保健の課題と支援 II	2			
目	精神保健福祉相談援助の基盤(専門)	2			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 IA	2			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 IB	2			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II A	2			
	精神保健福祉の理論と相談援助の展開 II B	2			
	精神保健福祉に関する制度とサービス I	2			
	精神保健福祉に関する制度とサービス II	2			
	精神障害者の生活支援システム	2			
	精神保健福祉援助演習 I	1			
	精神保健福祉援助演習 II	1			
	精神保健福祉援助演習 III	1			
	精神保健福祉援助実習指導 I	1			
	精神保健福祉援助実習指導 II	1			
	精神保健福祉援助実習指導 III	1			
	精神保健福祉援助実習	5			
介護	介護の基本 I A	2		□	
福祉	介護の基本 I B	2		□	
系科	介護の基本 II	2			
目	リハビリテーション論	2			
	レクリエーション活動援助法	1		□	
	介護マネジメント論	2			
	コミュニケーション技術 I	1		□	
	コミュニケーション技術 II(点字・手話)	1		□	
	家政学概論 I	2		□	

	家政学概論Ⅱ	2			
	家政学演習Ⅰ(栄養)	1		<input type="checkbox"/>	
	家政学演習Ⅱ(被服)	1			
	生活支援技術Ⅰ	2		<input type="checkbox"/>	
	生活支援技術Ⅱ	2		<input type="checkbox"/>	
	生活支援技術Ⅲ	1		<input type="checkbox"/>	
	生活支援技術Ⅳ	1			
	介護過程Ⅰ	2		<input type="checkbox"/>	
	介護過程ⅡA	1		<input type="checkbox"/>	
	介護過程ⅡB	1		<input type="checkbox"/>	
	介護過程ⅢA	1			
	介護過程ⅢB	1			
	介護総合演習Ⅰ	1		<input type="checkbox"/>	
	介護総合演習Ⅱ	1		<input type="checkbox"/>	
	介護総合演習Ⅲ	1			
	介護実習Ⅰ	2		<input type="checkbox"/>	
	介護実習Ⅱ	4		<input type="checkbox"/>	
	介護実習Ⅲ	4			
保育系科目	発達と老化の理解	2		<input type="checkbox"/>	
	認知症の理解	2		<input type="checkbox"/>	
	認知症のケア	2		<input type="checkbox"/>	
	医学一般	2		<input type="checkbox"/>	
	心と体の仕組み	2		<input type="checkbox"/>	
	介護予防と終末期のケア	2			
	医療的ケアⅠ	2		<input type="checkbox"/>	
	医療的ケアⅡ	2		<input type="checkbox"/>	
	医療的ケアⅢ	1		<input type="checkbox"/>	
	保育原理	2			<input type="checkbox"/>
	教育原理	2			<input type="checkbox"/>
	子育て支援	1			<input type="checkbox"/>
	社会的養護Ⅰ	2			<input type="checkbox"/>
	保育者論	2			<input type="checkbox"/>

	保育内容演習 I (健康)	1			<input type="checkbox"/>
	保育内容演習 II (人間関係)	1			<input type="checkbox"/>
	保育内容演習 III (環境)	1			<input type="checkbox"/>
	保育内容演習 IV (言葉)	1			<input type="checkbox"/>
	保育内容演習 V (表現)	1			<input type="checkbox"/>
	児童文学	2			
	乳児保育 I	2			<input type="checkbox"/>
	乳児保育 II	2			<input type="checkbox"/>
	障がい児保育	2			<input type="checkbox"/>
	社会的養護 II	1			<input type="checkbox"/>
	保育内容の理解と方法 I	2			<input type="checkbox"/>
	保育内容の理解と方法 II	2			<input type="checkbox"/>
	保育内容の理解と方法 III	1			
	母子保健	1			
	病児保育	1			
	保育実習概論	1			<input type="checkbox"/>
	保育実習指導 I — 1 (保育所)	1			<input type="checkbox"/>
	保育実習指導 I — 2 (施設)	1			<input type="checkbox"/>
	保育実習 I — 1 (保育所)	2			<input type="checkbox"/>
	保育実習 I — 2 (施設)	2			<input type="checkbox"/>
	保育実践演習	2			
	保育実習指導 II	1			
	保育実習 II	2			
	保育実習指導 III	1			
	保育実習 III	2			
関連科目	国際福祉論	2			
	国際医療福祉演習	1			
	国際福祉用語概論	2			
	社会福祉法概論	2			
	音楽療法概論	2			
	生涯発達心理学	2		<input type="checkbox"/>	
	障害者心理学	2			
	社会学	2			
	総合福祉論	4			
専門演習	専門演習 I A	1	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>
	専門演習 I B	1	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>
	専門演習 II A	2	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>
	専門演習 II B	2	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>
	卒業研究 I	2	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>
	卒業研究 II	2	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>	<input type="circle"/>

[注] 履修区分の表示において、○印は必修科目、□印は選択必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	医療福祉学専攻			介護福祉学専攻			保育学専攻		
	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択	必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	38	50	1	56	32	1	50	38
専門科目	10			10			10		
計	11	38	50	11	56	32	11	50	38
	99単位以上			99単位以上			99単位以上		

4 医療経営学部

医療経営学科

	授業科目	単位数
専門基礎科目	経営学入門	②
	医療経営学総論	②
	医療制度論	②
	社会保障論	②
	医学・医療概論	②
	医療関連法規	②
	医学用語概論	②
	情報システム学入門	②
	救急処置演習	①
	特別講義：医療と経営の実際	①
専門科目	経営組織論	2
	医療と経営組織	2
	経営戦略論	2
	医療と経営戦略	2
	人的資源管理論	2
	医療と人的資源管理	2
	マーケティング論	2
	医療とマーケティング	2
	生産管理論	2
	オペレーションズ・リサーチ	2
	非営利組織経営論	2
	簿記論	2
	簿記演習 I	1
	簿記演習 II	1
	会計学	2
	病院会計論	2
	医療経営分析	2
	財務管理論	2
	財務シミュレーション	1

管理会計	2
ロジカル・シンキング	2
病院管理学	②
介護マネジメント	②
ミクロ経済学	2
マクロ経済学	2
医療経済学	2
医療政策論	2
財政学	2
医療リスクマネジメント論	2
医療コミュニケーション論	2
医療と流通	2
医療機器と物品管理	2
医療福祉施設建築論	2
医療評価論	2
医療倫理	1
地域医療システム論	2
国際保健論	2
医療経営キャリア演習	1
人体構造機能学	2
臨床病理学概論	2
臨床医学 I	2
臨床医学 II	2
臨床医学 III	2
臨床医学 IV	2
メディカル・イングリッシュ	1
公衆衛生学	1
薬学概論	2
疾病分類学 I	2
疾病分類学 II	2
疾病分類学演習 I	1
疾病分類学演習 II	1
診療情報管理演習	1
診療報酬制度論	2
診療報酬請求演習 I	1
診療報酬請求演習 II	1
医療事務概論	2
医療秘書概論	2
医療文書管理	2
医療統計学	2
医療情報学 I	2

医療情報学Ⅱ	2
医療ICT演習	1
診療情報管理論	2
情報システム学Ⅰ	2
情報システム学Ⅱ	2
実践病院情報システム	2
医療経営データベース演習	1
病院管理シミュレーション	1
医療経営情報シミュレーション	1
ビジネスマナー・接遇演習	1
医療施設管理実習事前演習	1
医療施設管理実習	2
インターンシップⅠ	1
インターンシップⅡ	1
医療ボランティア実習	1
ビジネス・コミュニケーション	1
フィールドワーク	1
医療経営演習	①
専門演習Ⅰ	②
専門演習Ⅱ	②
卒業研究Ⅰ	②
卒業研究Ⅱ	②

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	必修	選択
専門基礎科目	18	—
専門科目	13	68
計	31	68
99単位以上		

5 心理学部

心理学科

	授業科目	単位数
基幹科目	チュートリアル	①
	日本語基礎演習Ⅰ(話す・聞く)	①
	日本語基礎演習Ⅱ(読む・書く)	①
	心理学概論	②
	学習・言語心理学	2
	発達心理学	2
	感情・人格心理学	2
	動物心理学	2
	知覚・認知心理学	2

神経・生理心理学	2	
色彩心理学	2	
心理学統計法	②	
心理学研究法A	②	
心理学研究法B	2	
心理学研究法C	2	
専門職連携基礎演習 I	①	
専門職連携基礎演習 II	①	
ストレスマネジメント演習	①	
心理学実験	②	
心理学応用実験	1	
コミュニケーション演習	①	
心理学演習 I	②	
心理学演習 II	②	
多変量解析演習	2	
外国書講読	2	
卒業研究 I	②	
卒業研究 II	②	
臨床心理 学系	臨床心理学概論	2
	心理学的支援法	2
	公認心理師の職責	2
	心理的アセスメント	2
	障害者・障害児心理学	2
	認知行動療法	2
	教育・学校心理学	2
	心理学の現場(教育・発達)	2
	学校カウンセリング	2
	心理演習 I	2
	心理演習 II	2
	心理実習	2
医療・健 康・福祉 系	関係行政論	2
	健康・医療心理学	2
	コミュニティ心理学	2
	福祉心理学	2
	公衆衛生学	2
	睡眠改善学	2
	人体の構造と機能及び疾病	2
	精神疾患とその治療 I	2
	精神疾患とその治療 II	2
	高齢者支援演習	2
	専門職連携総合演習 I	1

	専門職連携総合演習 II	1
産業・社会系	社会・集団・家族心理学A	2
	社会・集団・家族心理学B	2
	社会調査法概論	2
	司法・犯罪心理学	2
	消費者心理学	2
	心理グループワーク演習	2
	産業・組織心理学	2
	社会心理調査法実習 I	1
	社会心理調査法実習 II	1
	心理学実践実習(産業・社会)	1
	メディアコミュニケーション実習	1
コミュニケーションプログラム	地域支援実習	1
	ビジネス演習	2
	コミュニケーション実習 I	2
	コミュニケーション実習 II	2
	キャリア体験	1

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

区分	必修	選択
基幹科目	23	67*
臨床心理学系	—	
医療・健康・福祉系		
産業・社会系		
コミュニケーションプログラム		
計	23	67
		90単位以上

〔注〕 * : 「心理実習」、「心理学実践実習(産業・社会)」、「地域支援実習」の3科目のうちいずれか1科目を含め、『基幹科目』『臨床心理学系』『医療・健康・福祉系』『産業・社会系』『コミュニケーションプログラム』から67単位以上修得すること。

6 看護学部

看護学科

	授業科目	単位数
専門基礎科目	生命倫理	①
	健康科学論	①
	人体の構造と生理機能 I	②
	人体の構造と生理機能 II	②
	栄養・代謝学と臨床生化学	②
	臨床薬理学	②
	微生物学	②

	臨床病態学Ⅰ	(1)	
	臨床病態学Ⅱ	(2)	
	臨床病態学Ⅲ	(2)	
	臨床心理学	(2)	
	カウンセリング理論と技法	1	
	人間の発達と人間関係	2	
	社会保障論	1	
	看護関係法規	(1)	
	看護情報学	1	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	(2)	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1	
	疫学	(2)	
	保健統計	(2)	
専門科目	基礎看護学系	看護学概論Ⅰ	(2)
		看護学概論Ⅱ	(1)
		基礎看護技術演習Ⅰ	(1)
		基礎看護技術演習Ⅱ	(2)
		基礎看護技術演習Ⅲ	(2)
		看護診断学演習	(1)
		基礎看護学実習Ⅰ	(1)
		基礎看護学実習Ⅱ	(2)
		成人保健	(1)
成人看護学系		成人看護学概論Ⅰ	(1)
		成人看護学概論Ⅱ	(1)
		成人看護学各論Ⅰ	(1)
		成人看護学各論Ⅱ	(1)
		成人看護学演習Ⅰ	(1)
		成人看護学演習Ⅱ	(1)
		成人看護学実習Ⅰ	(3)
		成人看護学実習Ⅱ	(3)
		老年看護学概論	(2)
老年看護学系		老年看護学各論	(1)
		老年看護学演習	(1)
		老年看護学実習	(4)
		小児看護学概論	(2)
小児看護学系		小児看護学各論	(1)
		小児看護学演習	(1)
		小児看護学実習	(2)
		母性看護学概論	(2)
母性看護学系		母性看護学各論	(1)
		母性看護学演習	(1)

	母性看護学実習	②
精神看 護学系	精神看護学概論	②
	精神看護学各論	①
	精神看護学演習	①
	精神看護学実習	②
在宅看 護学系	在宅看護学概論	②
	在宅看護学演習	①
	在宅看護学実習	②
公衆衛 生看護 学系	公衆衛生看護学概論	②
	公衆衛生看護学各論 I	2
	公衆衛生看護学各論 II	2
	公衆衛生看護学各論 III	2
	学校保健	1
	産業保健	①
	公衆衛生看護学演習 I	2
	公衆衛生看護学演習 II	2
	公衆衛生看護学演習 III	1
	公衆衛生看護学演習 IV	1
	公衆衛生看護学実習 I	4
	公衆衛生看護学実習 II	1
	公衆衛生看護学実習 III	1
統合看 護学系	家族看護学	1
	リハビリテーション看護論	1
	感染制御学	1
	子育て支援論	1
	難病看護論	1
	メンタルヘルス支援論	1
	看護管理学	1
	ターミナルケア論	1
	国際看護論	1
	災害・救急看護論	2
卒業研 究	統合看護学実習	②
	看護学総合演習	②
卒業研 究	研究方法論	②
	卒業研究	②

〔注〕 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

科目区分	必修	選択
専門基礎科目	26	3
専門科目	67	7
計	93	10
103単位以上		

7 薬学部

薬学科

	授業科目	単位数
専門科目	医療倫理・医学概論	①
	チュートリアル	①
	薬学へのいざない	①
	薬学概論	①
	薬学と社会・薬事関係法規	①
	薬学と社会・コミュニティーファーマシー論	①
	専門職連携基礎演習 I	①
	専門職連携基礎演習 II	①
	物理化学 I	①
	物理化学 II	①
	物理化学 III	①
	分析化学 I	①
	分析化学 II	①
	機器分析学	①
	臨床分析学	①
	有機化学 I	①
	有機化学 II	①
	有機化学 III	①
	有機化学 IV	①
	医薬品化学	①
	生薬学	①
	ヒトの成り立ち	①
	細胞生物学	①
	生体の機能調節	①
	微生物	①
	生化学 I	①
	生化学 II	①
	遺伝子	①
	生体防御 I	①
	生体防御 II	①
	栄養と食品	①
	食品衛生学	①
	社会集団と健康	①
	環境因子の生体影響	①
	化学物質の生体影響	①
	生活環境と健康	①
	病態と薬理総論	①
	病態と薬理 I	①

病態と薬理Ⅱ	①
病態と薬理Ⅲ	①
病態と薬理Ⅳ	①
病態と薬理Ⅴ	①
病態と薬理Ⅵ	①
病態と薬理Ⅶ	①
薬の生体内運命	①
薬物動態解析学	①
製剤の性質	①
製剤設計・DDS	①
医薬品情報	①
患者情報	①
医療統計学	①
臨床薬学	①
医療コミュニケーション	①
治療解析	①
物理化学・分析化学演習	①
有機化学・生薬学演習	①
生物学演習	①
薬剤学演習	①
基礎薬学演習	⑨
応用薬学演習	⑨
総合薬学演習	⑯
物理化学・分析化学実習	③
有機化学・生薬学実習	③
生物学実習	③
衛生薬学実習	③
薬理学実習	③
薬剤学実習	③
卒業研究Ⅰ	⑤
卒業研究Ⅱ	⑤
卒業研究Ⅲ	②
早期臨床体験	①
実務事前実習	⑤
学外実務実習	⑯
薬学英語Ⅰ	①
薬学英語Ⅱ	1
総合医薬科学	2
医薬品の開発と生産	2
臨床薬学における専門薬剤師の役割	2
EBMの実践	2

在宅医療・介護・フィジカルアセスメント	2
地域保健・公衆衛生・栄養管理・保健行政	2
医薬品流通と医療に関する経済学	2
応用薬物治療学	2
専門職連携総合演習Ⅰ	1
専門職連携総合演習Ⅱ	1

[注] 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

区分	必修	選択
専門科目	151	11
合計	162単位以上	

8 医療栄養学部

医療栄養学科

授業科目	単位数
専門基礎分野	
医療人養成に向けた基礎教育	① ① ① ①
社会・環境と健康	② ② ②
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	② ② ① ② ② ① ① ① ② ② ② ② ①
食べ物と健康	② ① ① ② ② ① ② ①

	食品衛生学	②
	食品衛生学実験	①
	文献立作成実習	①
専門応用分野	基礎栄養学	②
	基礎栄養学実験	①
	食事摂取基準演習	①
応用栄養学	応用栄養学 I	②
	応用栄養学 II	②
	応用栄養学 III	②
	応用栄養学実習	①
栄養教育論	栄養教育論 I	②
	栄養教育論 II	②
	栄養教育論 III	②
	栄養教育論実習	①
臨床栄養学	臨床栄養学総論	②
	臨床栄養学各論 I	②
	臨床栄養学各論 II	②
	臨床栄養学各論 III	②
	臨床栄養学実習 I	①
	臨床栄養学実習 II	①
公衆栄養学	公衆栄養学 I	②
	公衆栄養学 II	②
	公衆栄養学実習	①
給食経営管理論	給食経営管理総論	②
	給食経営管理各論	②
	給食経営管理実習 I	①
	給食経営管理実習 II	①
総合演習	総合演習 I	①
	総合演習 II	1
	総合演習 III	①
	総合演習 IV	1
	総合演習 V	1
	総合専門演習 I	①
	総合専門演習 II	②
臨地実習	臨地実習 I (給食の運営)	①
	臨地実習 II (給食経営管理論)	1
	臨地実習 III (臨床栄養学)	②
	臨地実習 IV (臨床栄養学)	1
	臨地実習 V (公衆栄養学)	1
関連科目	食育演習 I	1
	食育演習 II	1

	食育演習Ⅲ	1
	食医特論	2
	食医特論演習	1
	栄養薬学	2
	医療・福祉・介護と栄養ケア	2
	卒業研究Ⅰ	②
	卒業研究Ⅱ	②

- [注] 1 単位数を○で囲んだ授業科目は必修科目を示す。
 2 単位数を□で囲んだ授業科目は選択必修科目を示す。

【卒業に必要な単位数】

区分	必修	選択
専門基礎分野	44	5 *
専門応用分野	51	
計	95	5
100単位以上		

[注] * : 『専門応用分野』の「総合演習」から選択必修科目 1 単位、「臨地実習」から選択必修科目 1 単位の計 2 単位を含め、『専門応用分野』およびV教職課程の 1 栄養に係る教育に関する科目の「学校栄養教育論Ⅰ」、「学校栄養教育論Ⅱ」から 5 単位を修得すること。

V 教職課程

1 栄養に係る教育に関する科目

授業科目	単位数
学校栄養教育論Ⅰ	2
学校栄養教育論Ⅱ	2

2 教職に関する科目

授業科目	単位数
教育原理	1
教職概論	2
教育制度論	1
学校教育心理学	1
特別支援教育論	1
教育課程論	2
道徳・特別活動論	2
総合的な学習の時間論	1
教育方法論	2
生徒指導論	1
教育相談	1
栄養教育実習Ⅰ	1
栄養教育実習Ⅱ	1
教職実践演習(栄養教諭)	2

別表第2 入学検定料

(単位：円)

種別	金額
入学検定料	35,000

別表第3 学費

各学部の学費の金額は、つぎのとおりとする。

(単位：円)

(1) 保健医療学部・総合リハビリテーション学部・看護学部

科目	納期	納入額
入学金	入学手続時	250,000

年次	科目	納入額		備考
		前期	後期	
1年次	授業料	715,000	715,000	※ 入学年度の前期分学費は入学手続時に納入
	教育充実費	45,000	45,000	
	計	760,000	760,000	
2年次以降	授業料	715,000	715,000	
	教育充実費	100,000	100,000	
	計	815,000	815,000	

(2) 医療福祉学部・医療経営学部・心理学部

科目	納期	納入額
入学金	入学手続時	250,000

年次	科目	納入額		備考
		前期	後期	
1年次	授業料	515,000	515,000	※ 入学年度の前期分学費は入学手続時に納入
	教育充実費	25,000	25,000	
	計	540,000	540,000	
2年次以降	授業料	515,000	515,000	
	教育充実費	75,000	75,000	
	計	590,000	590,000	

(3) 薬学部

科目	納期	納入額
入学金	入学手続時	450,000

年次	科目	納入額		備考
		前期	後期	
1年次	授業料	860,000	860,000	※ 入学年度の前期分学費は入学手続時に納入
	教育充実費	50,000	50,000	
	計	910,000	910,000	
2年次以降	授業料	860,000	860,000	
	教育充実費	100,000	100,000	

計	960,000	960,000
---	---------	---------

(4) 医療栄養学部

科目	納期	納入額
入学金	入学手続時	250,000

科目	納入額		備考
	前期	後期	
授業料	580,000	580,000	※ 入学年度の前期分学費は
計	580,000	580,000	入学手続時に納入

〔注〕

- 1 学費の金額は、経済情勢の変動によっては改定することがある。
- 2 第20条もしくは第21条により編入学または転入学を許可された者は、新所属の年次の学生に適用される学費を適用する。
- 3 この規定において1年次とは在籍1年目をいう。ただし、編入学または転入学を許可された者は除く。

別表第4 研究料

(単位：円)

学部	期間	6ヶ月	1年
保健医療学部		205,000	410,000
総合リハビリテーション学部		205,000	410,000
医療福祉学部		155,000	310,000
医療経営学部		155,000	310,000
心理学部		155,000	310,000
看護学部		205,000	410,000
薬学部		285,000	570,000
医療栄養学部		155,000	310,000

別表第5 履修料

(単位：円)

学部	金額	備考
保健医療学部	20,000	1単位当たり
総合リハビリテーション学部	20,000	
医療福祉学部	15,000	
医療経営学部	15,000	
心理学部	15,000	
看護学部	20,000	
薬学部	25,000	
医療栄養学部	15,000	

別表第6 在籍料

(単位 : 円)

区分	金額
前期	60,000
後期	60,000

別表第7 研修料

(単位 : 円)

学部	金額	備考
保健医療学部	20,000	月額
総合リハビリテーション学部	20,000	
医療福祉学部	15,000	
医療経営学部	15,000	
心理学部	15,000	
看護学部	20,000	
薬学部	25,000	
医療栄養学部	15,000	

別表第8 教育職員免許状の種類および免許教科

教職課程を置く学部・学科・専攻	免許状の種類	免許教科
医療栄養学部	医療栄養学科	栄養教諭一種免許状